

計画の基本方針に沿った 静岡県内の緑化の事例

緑化の事例（休耕地を活用した緑化）



裾野市では、観光拠点であるパノラマロード沿線の遊林農地に、市民協働の手法を用いながら、景観作物または地力増強作物などを植栽し、観光復興及び遊林農地の解消を図っている。



↑南伊豆町では、国道沿いの遊林農地に、菜の花・ひまわりを植栽し、観光振興及び遊林農地の解消を図っている。



↑松崎町では、花の咲く町推進事業として、主要道沿いの農閑期の田んぼを利用して大規模な花畑を造成し、観光振興を図っている。

里山整備の事例

22世紀の丘公園たまりーな（掛川市）



↑ 着手前



↑ 完了後

放置竹林の対策として、竹林の伐採を実施。

大淵公園（富士市）



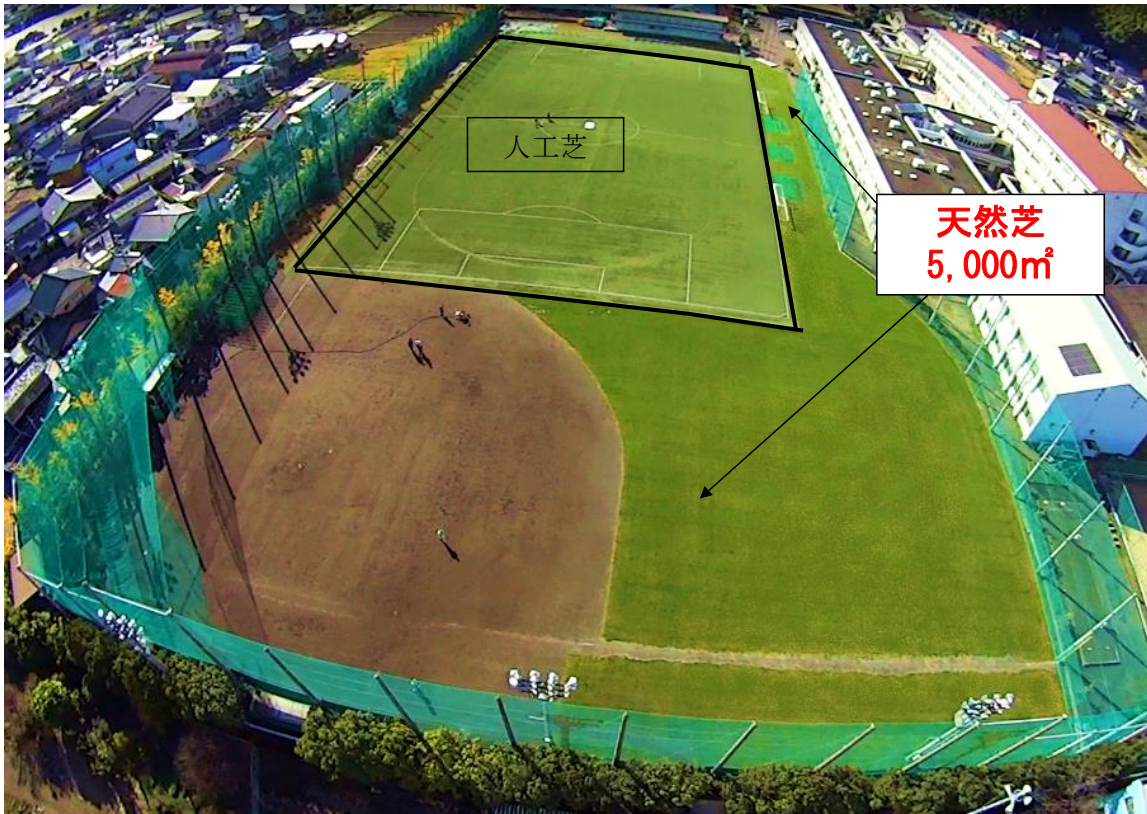
↑ 着手前



↑ 完了後

放置された里山の間伐を実施。
鬱蒼とした林が明るい林になり、里山本来の植生が復活する。

芝生化の事例（島田工業高校）



静岡県芝草研究所の研究の一環として、県立高校の校庭の芝生化をモデル的に実施している。

芝生化の事例



↑ 藤枝駅前公園



↑ 修善寺保育園



↑ 清水町立南幼稚園

県では、グリーンバンクを通じ、園庭・公園等の芝生化を行う団体とその維持を行っている団体に助成し、芝生化を推進している。

緑化の事例（愛野駅～エコパ）



袋井市は、平成14年のサッカーワールドカップを契機に、愛野駅からエコパスタジアムまでの導線をメモリアルロードとして整備。

沿道を地域ボランティア団体と協力して、緑化を実施。

エコパではラグビーワールドカップ2019が開催される予定。

緑化の事例（三島市街地）



三島市は、市総合計画の重点プロジェクトに「ガーデンシティみしま」を掲げ中心市街地の緑化を積極的に推進。

市直営及び地域ボランティア団体と協力して、取組を実施。

三島駅は伊豆半島観光の玄関口であり、東京2020五輪自転車会場への交通結節点でもある。

緑化の事例（富士宮駅～神田川広場）



富士宮市では、今冬富士山世界遺産センターが開館する予定。

富士宮市の公共交通の基点となる富士宮駅。

上の2枚は北口
下は南口の花壇



神田川広場（上）と神田川せせらぎ広場（右）は、世界遺産センターから浅間大社へと向かう参道の脇にある。



緑化の事例(企業による緑化)

「ふじのくに花の都しずおか花緑コンクール」 花が自慢の職場部門より



緑化の事例 (浜松駅前)



省力化の事例（三島市）



↑ 取り外し可能なポット



↑ 自動散水のタイマー

省力化の事例（藤枝市）



↑ 花壇の自動散水



ハンギングバスケットの
自動散水→

管理の省力化のため、取替
式ポットや自動散水装置を
設置。

